ミニトマト管理情報（梅雨前管理・防除について）

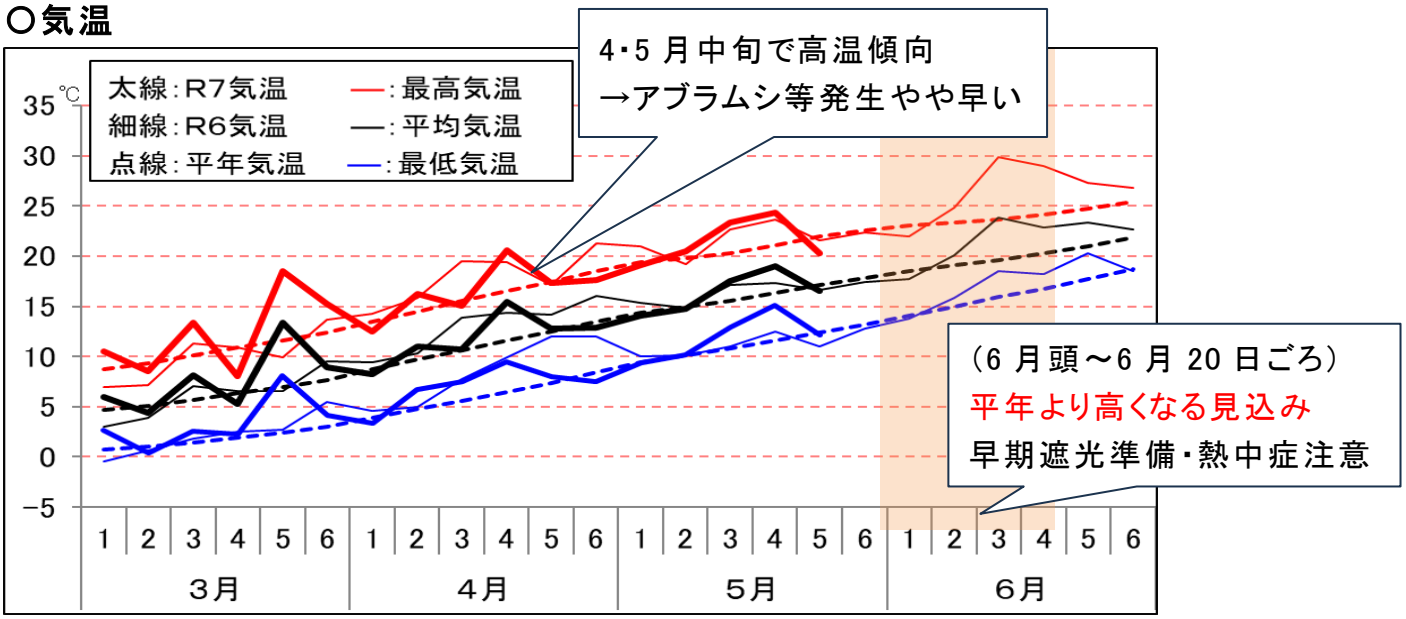
令和7年5月
ＪＡのとミニトマト部 会 協 議 会
石川県奥能登農林総合事務所

【生育概況（5 月 20 日時点）】

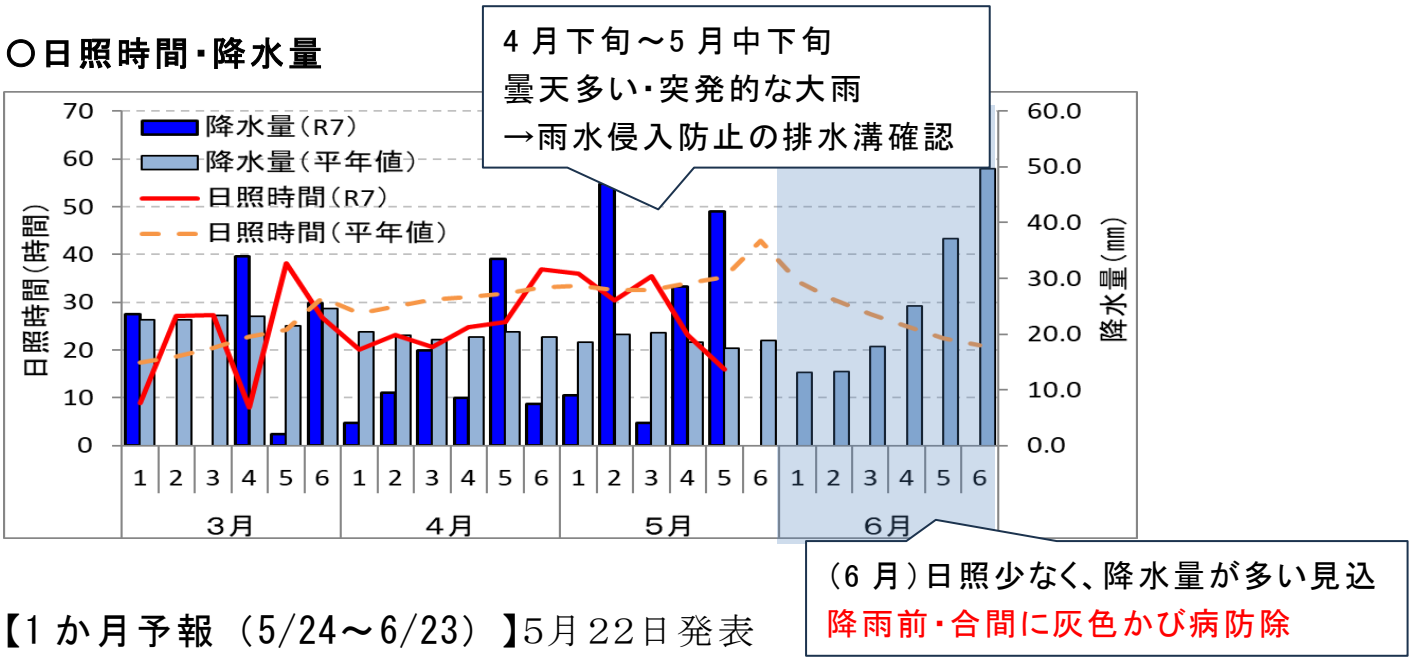
生育は 1 型で4～5段開花、2型で3段開花と平年並み。一部で草勢が強く、芯止まりの恐れあり（着果も悪い場合、カルシウム剤を散布すること）。また、一部でアブラムシ、ハモグリバエの発生が見られるものの適期防除により多発には至っていない。

【半旬ごと気象データ（輪島）】

○気温



○日照時間・降水量



【1 か月予報（5/24～6/23）】5月22日発表

期間前半の天気は数日の周期で変わるものの、平年に比べ曇りや雨の日が多い。
（平年比）気温：高い、降水量：多い、日照時間：少ない

【栽培管理の注意点】

1　圃場準備

① 早期に**ハウス周りの排水溝を掘り直し**、排水溝に雨水が溜まらないようにする。(**降雨後に確認！**)

② ハウス内への雨水の侵入防止に、ハウス側面から排水溝にかけマルチなどを敷く。【右の写真参照】

※梅雨に入る前にもう一度、排水口の泥や落ち葉、雑草などを取り除き、スムーズに水が流れ出るようにする。

2　温度計と遮光ネットの確認

① ハウス内の温度を確認するため、ハウス内の中央の見やすい位置に最高温度と最低温度がわかる温度計を設置する(古い温度計は壊れている場合があるので注意！)。

【ミニトマトの生育適温は20～25℃。熱中症にならないためにも温度を確認する】

② 梅雨明け前(例年7月上旬)から、ハウス上部に遮光ネット(遮光率30～35%)が掛けられるように、早めに JA 各支店に発注するなど、準備しておく。

③ 気温上昇に伴い、**夜間の外気温が12℃以上に安定したら**、病害予防や養分消耗防止のため夜間もサイド(側窓)を開けて**換気**する。

【風雨の強い日はハウスを閉め切り、風が弱まったら病気の発生を防ぐため、すぐにサイドを開ける】

3　病害虫の発生防除

(1)灰色かび病・すすかび病

雨天が続き、ハウス内湿度が高い環境では灰色かび病、すすかび病が発生しやすい。雨水の侵入防止、葉かき等通気性確保と梅雨入り前、梅雨中晴れ間は防除を徹底する。

(予防剤)

ダコニール 1000(**灰・す**※、1,000 倍、2 回)、ベルクートフロアブル(**灰・す**、4,000 倍、2 回)、ボトキラー水和剤(灰、1,000 倍、—)、ペンコゼブフロアブル(す、1,000 倍、2 回)

(予防・治療剤)

小発時:カリグリーン(灰、800 倍、—)、パレード 20 フロアブル(**灰・す**、2,000 倍、3 回)、アフェットフロアブル(**灰・す**、2,000 倍、3 回)、シグナム WDG(**灰・す**、2,000 倍、2 回)

多発時(1 作 1 回):ゲッター水和剤(灰、1,500 倍、3 回)、トリフミン水和剤(す、3,000 倍、5 回)

※:灰:灰色かび病対象、す:すすかび病対象

(2)トマトキバガ(R6 から能登でも発生、多発すると防除困難)

発生初期は葉で食害、果実食害が出ると防除が困難となる。発生初期にすぐに防除を行えるよう剤を準備する。

・ディアナSC(2,500～5,000 倍、2 回以内)
・コテツフロアブル(2,000 倍、3 回以内)
・ベネビアOD(2,000 倍、3 回以内)
・プレオフロアブル(1,000 倍、2 回以内)

トマトキバガ食害痕（葉・果実）